

授業力の向上に係る校内研修の在り方

～県内公立学校の校内研修の実態調査と方法の提案～

福島県教育センター 調査研究チーム 指導主事 鈴木 豊

1 研究の趣旨

本県の児童生徒の喫緊の課題は学力向上であり、特に、思考力・判断力・表現力の育成が求められている。このような力を育成するためには、授業の改善が必要であり、授業力の向上のためにも校内研修の充実が重要になってくる。

また、震災後、3年が経過したとはいえ、その影響や不登校の増加傾向を考えると、各学校において児童生徒の自尊感情を高め、親和的な学級集団をつくることも大切である。授業者はそれらを意識しながら適切に授業をコーディネートしなければならないが、それはかなり高度な技術であり、研修が必要である。

さらに、本県の教員年齢別男女構成比を見ると、教師の高年齢化が進み、今後、新採用者が増加することが見込まれている。このような状況を踏まえると、教育活動の活性化、指導技術の伝達のためにも、校内研修の重要性はますます高まってくると言える。

上記のような理由から、今年度は、県内公立学校に校内研修についてのアンケート調査を実施し、分析結果から授業力の向上に係る校内研修の在り方を提案していきたいと考える。また、事前研究協力校での実践から成果と課題を検証し、提案の見直しを図っていきたいと考える。

2 研究の概要

(1) 県内のすべての公立学校に「授業力の向上に係る校内研修に関する調査」を実施し、4つの観点から分析を行った。

- ① 校内研修に対する意欲・課題意識
- ② 各種学校における校内研修の実際
- ③ 研究授業の実際と授業研究における悩み
- ④ 授業力の向上と校内研修との関わり

(2) 文献等で先行事例を研究するとともに、本センター発行の「授業改善ハンドブック」を基に、授業力の向上に向けて効果的な授業研究の在り方を提案した。

- ① 「授業改善ハンドブック」を基にした授業力の分析方法の提案
- ② 事前研究、研究授業の参観、事後研究の効果的・効率的な進め方の提案
- ③ 自分の授業を見直し、改善する方法の提案

(3) 事前研究協力校の授業研究を中心に、実践的研究を行った。

- ① 事前研究協力校への実践協力内容の提案と授業研究会への参加
- ② 実践における成果と課題の検証と提案の見直し

3 研究の経過（現時点での成果と課題）

(1) 研究の成果

- ① 調査の分析から、「自己課題の明確化」「授業研究の改善」「同僚性・協働性の向上」「日常化の推進」の4つの課題を導き出し、課題解決に向けての提案を行うことができた。
 - 「自己課題の明確化」や「日常化の推進」に関わる、教員一人一人の課題を把握するための「授業改善ハンドブック」を基にしたチェックシートの提案
 - 「授業研究の改善」や「同僚性・協働性の向上」に関わる、授業を見る視点を共有するための事前研究会の持ち方や視点を絞った効率的な事後研究会の持ち方の提案
 - 「自己課題の明確化」や「同僚性・協働性の向上」に関わる、授業研究と教員一人一人の授業力の向上を結び付けるための振り返りの方法の提案
 - 「日常化の推進」に関わる、授業力の向上に係る自己の課題を日常の授業実践につなげるための方法の提案
- ② 事前研究協力校での実践から、提案の見直しを行うことができた。
 - 視点を絞った効率的な事後研究会を目的としたワークショップ型研修の見直し
 - 授業研究と教員一人一人の授業力の向上を結び付けるための授業改善シートの共有方法の見直し

(2) 今後の課題

事前研究協力校での実践は、年度途中からであったために、上記した提案の全てを検証することはできなかった。特に、授業力の向上に係る自己の課題を日常の授業実践につなげるための方法については、学校規模や学校種の違いによって取組が異なるため、各学校の実態に合わせた効率的な取組方法を模索する必要がある。